

宮崎県キャリア教育支援センター通信



キャリア教育支援センター
公式WEBサイト

トピックス

1. 県内4団体が文部科学大臣表彰！
2. 小林市キャリア教育支援センター
藤田さんへのインタビュー
3. 教育現場における豊かさ指標
(2021年版)の活用について

英語とドイツ語の「教育」という言葉の語源は、どちらも「引き出す」という意味なのだそうです。子供の内に宿る能力を引き出す。「善くするのではなく、既に持っている善いものを認めて引き出す」と考えたいですね。日本語の「育む」という言葉にも、親鳥が雛鳥を自分の羽で包んで守り育てるという意味と、雛鳥が親鳥の羽に包まれて安心して生きているという「育もる（はぐくもる）」という意味があることを知りました。
トータルコーディネーター 水永 正憲

第14回キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等文部科学大臣表彰 県内4団体が表彰されました

今年1月25日（火）、「令和3年度キャリア教育推進連携シンポジウム」が開催され、第14回キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等文部科学大臣表彰について受賞校等が発表されました。キャリア教育の充実発展に尽力し、顕著な功績が認められた団体へ送られるもので、宮崎県では以下の4団体がその功績をたたえられました。

宮崎県
表彰
団体

都農町
教育委員会

綾町立
綾中学校

高鍋町立
高鍋西中学校

小林市キャリア
教育支援センター

文部科学大臣表彰の受賞校等は、教育委員会の部12団体、学校の部98団体、PTA団体等の9団体、合計119団体です。受賞校等は、各都道府県・指定都市教育委員会からの推薦を受け、文部科学省が決定しました。推薦内容等詳細については、右のQRコードより文部科学省の該当ページにてお読みいただけます。



小林市キャリア教育支援センター 藤田さんへのインタビュー



ビジネス業界の最前線で実績を積まれたのち、小林市キャリア教育支援センターが発足した5年前から『キャリア教育＝人づくり』をモットーに、外部人材と児童生徒をつなぎ、小林市のキャリア教育に尽力されている藤田さん。

学校内外で、子どもたちや先生方のSOSをつぶさに感じ取り、きめ細やかなサポートをされるにも関わらず、「好きでやっているから苦労や大変さは感じない」と明るく話されます。

そんな藤田さん。どのような経験が原動力になっているのでしょうか。お話を聞いてみると、富士通でプロジェクトリーダーを務めていた頃、自分の判断ミスで会社に損失を出した大失敗の経験が、「今の原動力となっている」と語ってくれました。

「当時は、自分への過信があった。誤りが疑われたとき、もしジョブを中断して検証確認をしていれば、もし、もっと周囲を信じて早い段階で周囲と協力していれば、小規模の修正でよりよく課題解決できたかもしれない。」本質に迫るストレートな発言は、ご自身にも向けられ、まっすぐなお人柄がにじみ出ていました。

また、就任された初年度から取り組んでいる「小林近未来ハイスクール」への思いを伺ったところ、参加した中高生はもちろん、ファシリテーターの大人たちにとっても、重要なリスキングの場となって

これからのキャリア教育に重要なこと

- ① 発信力の育成
- ② 自己開示の形成
- ③ ないものが無いことへの気付き
- ④ リスキング
(一生、新しいスキルを学び続ける
: 学び直し)

そして”who you are”が重要

おり、コロナ禍で学ぶ機会を再認識する期間であるからこそ、今年度の実施には、特に手応えを感じられたそうです。新しい風を教育現場に送りこみながら、これからもまだまだコーディネーター藤田さんの活躍は続きます。

教育現場におけるゆたかさ指標（2021年版）の活用について

県では「経済的なゆたかさ」と「お金には代えられない価値」とが調和した「新しいゆたかさ」の実現を目指しています。しかし、「ゆたかさ」は人によって感じ方が異なることから、統計データにより「ゆたかさ」を見える化した「ゆたかさ指標（日本のひなたの「新しいゆたかさ」）」を作成しています。

この指標を教育現場でも積極的に活用してもらうことにより、児童・生徒が本県の良さや自分の生活を見つめ直し、地域への愛着と誇りを育む機会の創出につなげてもらうことを期待しています。

2021年版の結果について以下に紹介します。なお、「心で感じるゆたかさ」指標など、詳細はパンフレットを参照ください。



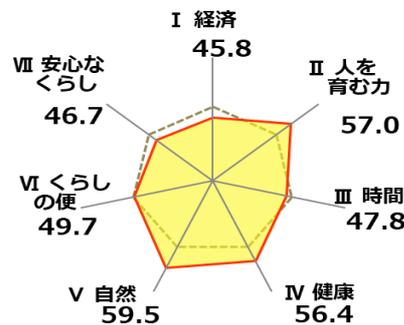
「目に見えるゆたかさ」指標

公的な統計データに県民の意識を加えて、宮崎の姿や全国的な位置づけを捉える指標

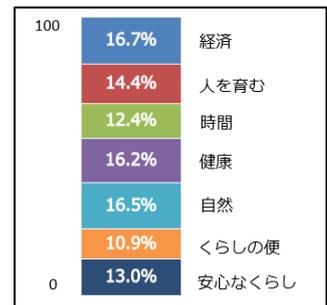
Point 1 「自然」は全国1位、「人を育む力」は全国2位、総合的な宮崎の「ゆたかさ」は全国10位。

Point 2 県民の意識としては、「経済」「健康」「自然」の分野を重視する意見が多い。

総合 51.8 (全国10位)



県民が重視する分野の割合
(令和2年度県民意識調査より)



ゆたかさ指標を使って宮崎県やあなたの「ゆたかさ」について考えてみませんか？

指標の活用方法（考えられる活用例）

- ①総合的な学習（探究）の時間、特別活動
 - ・ 課題研究における事前学習の資料
- ②特別活動（ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事）
 - ・ ふるさと学習、キャリア教育における資料
- ③各教科
 - ・ 本県の現状、また、幸福度・ゆたかさに関する意見交換、討論・ディベート等の諸活動における資料
- ④部活動（主に高校）
 - ・ 放送部、ディベート部、ボランティア部等の各活動の資料

【参考】指標の活用事例

- ・ 宮崎南高校、飯野高校、五ヶ瀬中等教育学校、日南高校、及び日向高校における総合的な探究の時間等での活用
- ・ 宮崎大学教育学部附属中学校の総合的な学習の時間におけるキャリア教育での活用
- ・ スーパーティーチャー授業公開（西都市立妻南小学校）での国語科での活用

家庭で



- 家族みんなで、「ゆたかさ」を探そう。
- 宮崎の「ゆたかさ」や良さを子どもたちに伝えよう。

学校や地域、会社で



- 授業やPTA・自治会活動、社員研修などで話し合おう。
- みんなでできる取組を考えよう。

個人で



- 自分なりの「ゆたかさ」を見つめ直そう。
- 自分にできることから取り組もう。

なお、パンフレットは、宮崎県のHP (<http://www.pref.miyazaki.lg.jp/sogoseisaku/kense/kekaku/yutakasa/index.html>) からダウンロードできます。10ページから12ページまでがすぐに活用できるワークシートとなっております。指標の活用に当たり、より詳しい説明など御協力しますので、お気軽に県庁総合政策課（0985-26-7607）まで御連絡ください。